



# おちほ

第79号 平成26年7月1日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田正則  
TEL 0748-77-2299 FAX 0748-77-5588 <http://ochiho.noor.jp/>



今年も無事に、三施設合同での氏神祭を開催することができました。天気は晴天！とはいかず、あいにくの曇り空でしたが、気温も丁度良く、御神輿を担いで歩くにはピッタリでした。

今年の落穂寮の御神輿のテーマは『ゆるキャラ』！テレビ等でお馴染みのくまモンやひこにゃん、ふなっしーを事前に職員が作らせて頂きました。その御神輿を職員と利用者さんで団結し、落穂寮から東寺グラウンドまで「ワッショイ、ワッショイ」と大きなかけ声をあげて担ぎました。東寺グラウンドに到着し、他施設さんと御神輿のお披露目をした後、全員で記念撮影をし、ジュースを美味しくいただきました。その後は少し休憩し、再び落穂寮まで運び無事氏神祭を終了しています。皆様お疲れ様でした！来年もまた全員元気で開催できればと思っています。

会に行く

二〇一四年五月、連休の最終日から六日間、京都市美術館で「第十五回土と色京都展」を開催しました。来館者数一三四〇人余。主催者としては十分手応えのある展覧会でした。

京都府下と滋賀県下の障がい施設を利用して人たちの粘土と絵画の作品展ですが、幼児からお年寄りまで、また様々な職種の人たちにご覧いただきました。会場の片隅にノートを置き感じたことを書いてもらいましたが、いろいろな感想が書かれていました。毎回のよう、なぜ作者の名前を出さないのか、制作の様子の説明があるのもっと作品が理解できるのではないかと、主催者への厳しい批判が示されていたり、反対に、いい作品展だった、ありがたう、というものでたくさん感想を寄せていただきました。

です。私たちは皆さんが作品に接する際、彼のような視点で作品に接していただきたいと願っていたのです。

私たちが展覧会に使用した大展示室の隣では、現代美術の作家たちによるGe(ゲー)展が開かれています。こちらは入場が有料で鑑賞する人たちは何かを求めて訪れるのだと思います。Ge展に出品している二人の作家に、それぞれ私たちの展覧会の感想を聞いたのですが、会場の持つ雰囲気

にホッとさせられるということでした。Ge展では一人ひとりの作家は自分自身のオリジナリティを主張する作品群ですから、共感ができる部分もあるのでしょうか、表現される作品世界に手軽に共感できるわけではない様子で、かなり緊張しあれこれ考えながら約一〇〇点余の作品を鑑賞するにはあまりにも疲れ過ぎるのでしょうか。だから、隣で開催している無料の作品群に何度も足を運んでこられたようです。

現代美術作者から「ホッとする」と言われ、又別の作家は、「この作品は、作ってやろうという意識が全くないよ。これは私たちの制作にもっとも必要なことです」といって数回鑑賞に来ておられました。私たちの進めてきた方向は間違いないことを確信し

ました。

多様性とその統一

京都展に出品された作品は、制作の現場に一番近くについてサポートしている人たちがそれぞれの素晴らしさに気づき、その様子を最も適切に表現できるような工夫して展示したものです。職業作家の眼を通して選ばれたものではありませんが、その点全体的に一貫性を欠いた選択もあるかもしれません、その意味において「土と色展」は当初から造形的に多様性のある作品展となっていました。

有史以前の洞窟壁画にあるような単純な線による原始的な表現から始まり、人間の脳が次第に発達しより写実的なギリシャ・ローマ、ルネッサンス様式、遠近法などの近代的画法の確立、印象派からキュビズムに至る諸相を経て現代芸術に達しました。

正統な美術教育を学ばなかった人たちの作品として、現在ではさまざまに発表の場がありますが、知的障がいや様々の障がいを併せ持つことにより、歴史的過程がスッポリ抜けて、時代がたどった経過を全く意識しない、有史以前の人たちの認識に似た様相を呈しているようです。それらの作品を多様性のままに美術館に展示しているわけですから、「これは一体何か?」と鑑賞する人々を混乱させることになりがちです。鑑賞する側に多様性から統一があつて初めて「納得!」ということになるわけですが、統一への手探り一切をお客様に預けることにより

成立するわけです。そのためには鑑賞者と作品との間に何も挿まない一期一会というべき無言の対話が求められるのです。

ママン・カーブ

展覧会を開催するたびに、制作者の持ち味を何とか的確に引き出した、そして完成度の高い展示を行いたい、という願いは長年の試行錯誤の積み重ねがあつて今日に到りました。京都市美術館の大展示室を効果的に構成したいというのは、毎回の大きな課題でした。今回はMさんの構成設営が進めることになりました。彼女は大学で美術を専門に勉強した方です。かなり時間をかけてあれこれ緻密に設計されたようですが、最終的に大ホールに三の焦点を持つ同心円の組み合わせにより構成したものでした。今まで数回会場構成をしたNさんは、男性では思いつかない線でお母さんの線だ、というのです。正に「ママン・カーブ」なのです。焦点に立つと数枚の楯が弧を描いてガードされ抱き包まれているように絵を鑑賞できるのです。先に触れたように一期一会の気兼ねない出会いの雰囲気さえ感じさせます。私は男性ではできなかつた新しい「線」が発見されたことを確信しました。この「線」は今後展覧会を企画する人たちにとって大きな影響を与える「線」となるでしょう。

(二〇一四・二・一七)

# 関わり先の先にあるもの

寮長 太田正則

新年度が始まりました。昨年九月には、耐震基準の関係から長年の課題でありました管理学習棟と体育館について、補助金を得て建て替えることができました。また、昨年度末から新年度にかけては、新しい入所利用者の受け入れと、短期入所者のスムーズな受け入れを実施するために居室の改修を実施し、二人部屋を間仕切り、狭いながらも八つの個室に作り替えました。これにより、一人部屋でないと支援が難しかった方の居室が確保でき、より個別支援が可能になることで、安定した生活につなげられたらと思っています。また、これまで、雨が降ると居住棟玄関に水たまりができて長靴を履かないと出入りできない状態にあったため、雨天時の安全な移動の確保を目的に玄関前を改修し、さらに多目的学習棟までを屋根つきの渡

り廊下でつなぐ工事を実施しました。五月十九日には完成し、入所利用者や短期入所利用者に不便をおかけすることなく生活・活動していただけるようになりました。ここで、これまでの課題解消に向けた取り組みをおさらいしたいと思います。平成二十二年からの目標であった「充実した日中活動の提供」の課題は、各活動班の活動場所の確保と天候に左右されることのない安心安全な移動の確保、そして活動提供できる職員の確保でした。落穂寮では水たまりをよけて歩くことや傘をさして歩くという事が難しい方が多く、かと言って一往復の相合傘で移動できる人数は限られているため、移動するだけで活動時間が終了してしまうという状況でした。そのため、職員は天候によっては居住棟で過ごすことを余儀なくされ、充実し

た活動の提供には至っていませんでした。そこで通所利用者の受け入れ開始に伴い地域生活支援棟を増設し、活動の場所と食堂を確保しました。そこに通う方は歩行機能にハンディを持つ方が多いため二十三年にはエレベーターを設置し、屋根つきの渡り廊下も設置することで常時移動可能にしました。二十四年には、自閉症を持つ知的ハンディの方が多く取り组まれるE C O班活動場所について、求められている作業内容と作業量を利用者にわかりやすくする「構造化」を図るために三つの教室を一つにして広い空間を作りました。これにより、どこで、何を、どれだけ取り组むのが明確になって、活動場所に移動するだけで自ら作業に取り组むことができるようになることで声掛けが減少し、聴覚過敏症状を現すことなく落ち着いて作業に取り组むことができるようになりました。そして、毎日午前

なくても良い環境を作りました。現在では、利用者全員が天候に左右されることなく、午前午後共に暮らしと活動の場所を分けて活動に取り组める環境が整いました。この「構造化」は自閉症を持つ方に有効な支援方法であると同時に、重い知的ハンディを持つ方についても、自分に求められていること（何をすればよいか）が明確になることから、混乱（パニック）を起すことなく、安定したメリハリのある生活を送っていただけるようになります。

さて、残された課題は「職員の確保」です。今年度はこの課題について取組み始めました。先ずは各活動班に担当職員を配置し、暮らしに左右されない日中活動の提供を目指しています。活動内容についても少しずつ濃くしていき、結果が残せればと思います。

まだまだ手探りの状態で、職員の動きもぎこちない状態ですが、日を追うごとに利用者・職員共に慣れていければと思っています。その先にある毎日楽しく過ごすみんなの笑顔をめざして。



皆さん、はじめまして。今年度から女子棟の職員として働かせて頂くことになりました日高沙耶と申します。よろしくお願ひ致します。

私は、大学で発達心理学を専攻しており、元の大津市では子どもたちの野外活動の支援を行う地域ボランティアに参加していました。学生時代から子どもやお年寄りの方と触れ合う機会があったものの、今まで障がいを持っておられる方と接することが全くありませんでした。そこで友人の勧めもあり、以前からやりたいと思っていた福祉の仕事に就くことを決意しました。落穂寮に来て、早くも一ヶ月が経ちましたが、毎日が楽しく働かせて頂いております。もちろん楽しいばかりの仕事ではなく不安や戸惑う事もありますが、利用者さんとの日々の生活の中で、コミュニケーションの大切さや一人一人の個性を発見できることが嬉しく思います。正しい支援とは何なのか、まだまだわからないことだらけですが、



▲市子さんと日高 ST

これから利用者さんの笑顔にながら支援を目指して頑張りたいと思います。

初めまして。今年度から女子棟で働かせて頂いている森地れみなです。

私が福祉に興味を持ったのは、従兄弟が生まれた時からです。従兄弟は先天性の病気でルビンシユタイン症候群でした。



▲香代さんと森地 ST

身近な人で障がいや病気のある方がいなかったため、始めは家族も不安が多かった様でした。最初の一年間は体が弱く入院を繰り返していたのが徐々に元気になっていく姿を見た私も嬉しく思いました。中学生になった私は、びわこ学園のサマーホリデーのボランティアを知り、参加するようになりました。

ボランティアに参加するうちに、介護の勉強をしたいと思いますようになり、綾羽高校の介護福祉科に進学しました。

実習では、一生懸命やってもなかなか上手く出来ず、実習先の利用者の方に怒られたりする事もしょっちゅうでした。それでも高校を卒業したら障がいを持っていらっしゃる方たちと関わる仕事をすると決意していました。今その夢が叶ったので一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願ひ致します。

# 2014 新人紹介 Vo.1

初めまして。4月から男子棟で働かせて頂く事になりました松崎 裕樹と申します。

学生時代に、高齢者の方々や保育園や幼稚園の子どもたちと触れ合う機会があったのですが、障がいを持った方と接していくという経験はほとんど無く、今は利用者さんの気持ちに合った支援をする事にとっても苦戦しています。

そんな僕が落穂寮に就職しようと思ったのは、昔あったある出来事がきっかけです。中学生の時、ある同級生の一人がちよっかいにより、その人とケンカをしていました。その後先生にその人は知的に障がいを持っていて、自分の気持ちを上手く伝えることができないという事を教えていただき、それまで障がいの事を全く分かっていなかった自分にショックを受けました。その出来事があり、将来は、障がいを持っている人に限らず、いろいろな人、一人一人の気持ちを理解し、そして全ての人が笑顔で楽しく暮らしていくためのお手伝いができるような仕事をしたい、落穂寮への就職を決めました。ゼロからのスタートとなりますが、どうぞよろしくお願ひ致します。



▲健児さんと松崎 ST

仕事したい、落穂寮への就職を決めました。ゼロからのスタートとなりますが、どうぞよろしくお願ひ致します。

初めまして。昨年の夏から落穂寮の女子棟で働かせて頂いています佐々木美香です。

実家では、私が小学生の頃より精神に少し障がいのある叔母と同居していた経験もあります。福祉の仕事にはほとんど縁がなく、2年目に初めてママ友を通じて救護施設で働く機会に恵まれました。

車椅子の操作やベッドへの移乗、オムツの交換等、初めての事ばかりでしたが、人と人が向き合い関われる仕事はとても楽しく充実していました。

その後、縁あって落穂寮の事を知り、体験に来させて頂いた時に寮の環境や雰囲気がとても好きになり、また、利用者さん一人一人の事を考え、支援しておられる姿に感銘を受けて、落穂寮で働きたいと思いました。

資格はなく、介護経験も浅いですが、子育て経験を生かし、利用者さんに身近に感じて頂けるお母さんのような支援員になれるよう頑張りたいと思います。

まだまだ先輩方々にご迷惑をおかけする事もありますが、どうぞよろしくお願ひ致します。

▼佐々木 ST と孝子さん



利用者さん

# NEW FACE

ねないこだれだ と ポっぴーちゃんを  
こよなく愛する

まさと  
正人さん(30才)



▲正人さんと吉川 ST

はじめまして。4月から男子棟で働かせていただいている吉川 知世と申します。

私は去年の6月より福祉の学校に通いながら落穂寮で勤務してきました。子どもの頃から東寺で育ててきた私でしたが、まさか落穂寮の職員になるとは思っておりませんでした。実際に働きはじめると、戸惑うこともたくさんありましたが、その度に指導してくださる先輩方や笑顔を見せてくれる利用者さんが私の心の支えとなってきました。

正職員となり、今まで以上の仕事や責任もありますが、まずは何より自分自身が笑顔で働くこと、そして利用者さんが少しでも多く笑顔になってくれることを目標に頑張っていきたいと思っています。

また、私自身が東寺の人間、ということを活かし、落穂寮で暮らす利用者さんの魅力を地域の人に知ってもらえるように努力していきたいと思っています。

これから辛いことや大変なことにもあうと思いますが、今の気持ちを忘れず、日々笑顔で頑張っていきます。どうぞよろしくお願ひ致します。





▲夏美さんと金森 ST

お久しぶりです。  
 奥村絵里と申します。  
 またまた4月よりお世話になっております。  
 利用者さんをはじめ、職員の方々ととても温かく迎えていただき、再びみなさんとお会いできたことをとてもうれしく思っています。  
 はじめての男子棟所属。訓練など、新しく覚えることも多く、焦りと不安も多々ありますが、以前の経験を生かしつつ、新たにチャレンジしていけたらと思っています。  
 何より笑顔で元氣よく、みなさんに安心していただけるように一つ一つ丁寧に支援していきたいと思っています。  
 再びご縁を大切にこれからもどうぞよろしくお願致します。

.....

昨年いの7月からお世話になっていました、  
 五十嵐泰明やです。昨年度は女子棟でお世話になっ  
 ていました。今年度から平日の日中活動班の杉の子を担当することになりました。  
 午前の歩行では、四季折々の自然を楽しみながら利用者さんの方々と一緒に体を動かしています。午後の紙すきでは、作業に慣れている利用者さんに助けられています。しっかりと身体を動かし、真剣に取り組むことで、充実した一日となるのではないのでしょうか。  
 私自身、まだまだ不慣れでわからないことも多く、なかなかうまくいかないこともありますが、利用者さんの方々と楽しく笑顔が絶えないような雰囲気作りを目指して、職員に相談しながら成長していきたいと思っています。ここで働いて感じることは、しんどい時も、落ち込む時もありますが、それが吹き飛んでしまうほど利用者さん方の笑顔には力があるということ。少しでもその手助けとなることを目標にして頑張りますので、どうぞよろしくお願致します。

.....

▼弘嗣さんと奥村 ST



.....

4月から落穂寮でお世話になってます水野久美子みです。直接現場に入って支援することはありませんが、5月から開所となった相談支援事業所の相談支援員としてサービズなど、利用計画作成の補助事務をさせていただくことになりました。よろしくお願致します。  
 大学では、福祉を学び、社会福祉士の資格を取ったものの、学生時代にサマースクールの指導員をしていた程度と、経験は乏しいですが、介護職員や高校福祉コースの講師、介護認定や区分認定の調査員として働いてきた中で私が得てきた事を生かしていければと思います。  
 仕事以外では、ここ数年以前から好きだった歌手のライブに行くことがライフワークの一つになっており、その人だけでなく、他の方のライブや舞台を観に行くようになり、活動範囲の広がりを密かに実感しています。  
 こんな不慣れで不勉強な私ですが、焦らず、一歩ずつ進んでいければと思いますので、温かく見守っていただければ幸いです。

▼水野 ST とすみ子さん



# 2014 新人紹介 Vo.2

## 男子棟

## 春のお花見遠足

暖かな春の日差しがなによりうれしい季節となり、今年も山の斜面がまるごと遊び場になっている。広々松籟公園で、男子棟の遠足を行いました。

利用者さんは、それぞれの脚力に合わせたコースを春の景色を楽しみつつ松籟公園まで歩行しました。みんなが松籟公園に到着すると、お楽しみのお弁当！おかげでいっぱいのお弁当を食べて、お腹



がいっぱいになった後は、めずらしい体力&健康遊具で、職員と一緒に体を動かす方、のんびり日光浴される方など、それぞれの楽しみ方で午後のひと時を楽しんでおられました。

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまうもので、落穂寮に帰寮する時間になりました。帰り道で、おやつを購入。自分で選んだおやつを食べて、男子棟の遠足は終了。今年も無事に楽しく遠足を終ることができました。

## 女子棟

## 春のお花見遠足

桜はすっかりと散ってしまっていました。4月25日にお花見遠足へ行ってきました。女子棟メンバーの行き先は、今年は昨年と同じく希望ヶ丘文化公園。遠足へ出かけると分かると、利用者さんのテンションも上がり、準備にも合いが入ります。さあマイクロバスとキャラバンに分乗して落穂寮を出発！去年は少々肌寒く、風の強い中の遠足になってしまいました。今年も4月なのに見事な五月晴れ、ポカポカ陽気の最高の遠足日和。公園に到着して荷物やお弁当を利用者さん、職員で協力して運びます。それが終わると、自由時間。お弁当まで、広々とした



芝生や、その脇を流れる小川、ブランコ、スベリ台など皆さん楽しく過ごされました。楽しいお弁当が終わると、元気な方はアスレチックへ。ややお疲れの方はシートでのんびり。それ以外の人もお散歩やシャボン玉遊びなど春の一日を十分に楽しみました。去年は寒くて、一昨年は雨で中止。3年目にしての希望ヶ丘公園でのお花見遠足大成功でした。また来年も楽しい遠足になるように今から祈っておきましょう。遠足の神様、よろしくお祈りします。

# おちほ寮誕生日。開寮記念日



今年新しく出来た多目的学習室での開寮記念日となりました。利用者さん、職員、総勢一〇〇名近い人数での開催になりました。

まず施設長のあいさつ、その後勤続年数5年で表彰を受け、大好きな重輔さんより花束を頂いた坂田智秋さん。

さあ待っていました、お昼ご飯です。今回は炊事の職員が朝から手作りしたお弁当です。赤飯、唐揚げ、お魚、煮物、酢の物とた

くさんのおかずで、どれから食べようか迷う程でした。いただきますをして、あつという間に召し上がってしまう利用者さん。ゆっくり味わって召し上がる利用者さん。それぞれ笑顔でいつもと違う雰囲気の中、食べるお弁当は格別でした。ありがとうございます。落穂寮六十四歳の年の始まりです。皆さんが健康で安心して生活が出来る、笑顔あふれる年になりますように…



## 泉

新年度が始まりました。それに合わせて新たに相談支援事業を開始しました。平成二十四年に一部法改正があり、平成二十六年中に障害福祉サービスを利用するすべての人にサービス等利用計画の作成が義務付けられました。原則としてこの計画書が作成されないと平成二十七年四月からのサービスは受けられなくなります。本来なら法人以外の相談支援事業所で作成していただくのですが、事業所の数も相談支援員の数も全く足りず、当法人の利用者が不利益を被ることになるため、当法人で事業所を立ち上げて対応することにしました。関係者の皆様にはご協力をお願いすることになると思いますので、その時はよろしくお願い申し上げます。

### 木言

多すぎる水は根を腐らせる  
強すぎる日光は葉を枯れさせる  
大切なのはバランス  
多すぎず強すぎず  
植物も人もそれは同じ  
優しさ厳しさ  
多すぎませんか？  
強すぎませんか？